

工学院大学のSDGsへの取組

～工学の視点で持続可能な循環型社会を目指す～

すべての人が平和で文化的な生活を送り、生物多様性が保たれた自然豊かな地球を守るために、人類共通の乗り越えるべき目標として設定されたのがSDGs（持続可能な開発目標）です。工学院大学は、最新の科学技術や産業技術の研究・活動に注力するとともに、持続可能な循環型社会づくりに向け、地球規模の視野を持ち世界をリードできる人材の育成をめざしています。

今回は工学院大学より4名の講師をお迎えし、人工知能、プラスチック、薄膜形成、建築の各分野の研究・活動についてSDGsの視点から講演をお願いします。

つきましては、SDGsへの取組に関心をお持ちの企業の皆様の経営の一助となりますようご案内申し上げます。

◆講演会

①『人工知能とデータ科学で実現するSDGs』

講師：三木 良雄 工学院大学 情報学部 システム数理学科 教授

講演概要 少子高齢化によって多くの産業が今までの状態継続が困難となっています。

本講演では、情報通信技術はこの種の労働力不足を救うのに適した技術であると考え、事業継続のために小売業、路線バス、製造業、市中監視などにおける研究事例をご紹介します。

②『環境にやさしいプラスチックの開発』

講師：西谷 要介 工学院大学 工学部 機械工学科 教授

講演概要 プラスチックは廃材の有効利用の低さや環境汚染など多くの問題があり、環境負荷低減や循環型社会形成を実現するためには、3R+リニューアブルを推進していく必要があります。

本講演では、プラスチックリサイクルやバイオマスプラスチックなどの事例を中心に、環境にやさしいプラスチックの開発について報告します。

③『低エネルギーで材料に付加価値を付ける機能性薄膜形成技術』

講師：永井 裕己 工学院大学 先進工学部 応用物理学科 准教授

講演概要 機能性薄膜は、対象となる基材の性質を損なうことなく、電気、磁気、光学的機能などを表面に付与できます。本講演では、溶液を塗布した基材に対して低エネルギーで機能性薄膜を付与できる研究成果を中心に紹介します。

④『既存の建築を活かして新たな価値を生み出そう』

講師：大内田 史郎 工学院大学 建築学部 建築デザイン学科 教授

講演概要 近年では、新しく建築をつくるのではなく、既にある建築を壊さずに残して活用するための「保存・再生デザイン」が重要な時代となりました。本講義では既存の建築を活かして新たな価値を生み出していくポイントについて、豊富な実例を交えながら解説します。

◆質疑応答

日時：2022年10月7日（金） 13:00～17:00

会場：ZOOMウェビナーによるオンライン開催

参加費：無料

主催：工学院大学／りそな中小企業振興財団